

できる暮らしやすい世田谷を目指す

のヒントとなる――

地区での実証運行を通して見えてきた
・区役所のそれぞれの目線から語り合
つながるお話をします。

問 交通政策課 ☎ 6432-7946 FAX 6432-7991



交通政策課 村田課長

区民の皆さん大切な
移動手段を守っていき
たいです。



村田課長 ワゴンは1日40人程度の方に
ご利用いただいています。現在、週5日運
行していますが、もし運行しなくなった場
合、今利用している、移動にお困りの方々
の外出機会が大幅に減ってしまいます。また、
会長のように元気な方でも、歩くのが
つらくなったり、自転車に乗れなくな
ったとき、移動手段のひとつとして必要性が増
していくと考えています。

地域の役割とは? ~住み慣れた地域で暮らし続けるために~

村田課長 持続可能なコミュニティ交通を
導入するには、地理的な状況や利用者の
ニーズなど、様々な条件を加味して慎重に
検討する必要があると考えています。区の
考えだけでなく、常に地域住民の方や関係
者の方々の意見に耳を傾けながら、一緒に考
えて地域ごとの課題解決につなげていく必要
があります。

長島会長 協議会で地域の要望、コミュニ
ティ交通の必要性などいろいろ話し合って
きました。私たちの生活実態を区職員の方
たちに理解してもらつたうえで、何が最適
かを検討してきました。細かい行政手続き
や警察への確認など困難もありましたが、
最終的には予約制での運行という形を取
ることになりました。

協議会メンバーの祖師谷みなみ商店街
は、祖師ヶ谷大蔵駅近くの道路事情をよく
知っているので、路上駐車や放置自転車等
の問題についてどんどん意見を出してくれ
ました。

村田課長 こうした知見がスムーズな運行
にとても役立っています。また、地域の方々
に協賛という形でも運行へのご支援をいた

だいており、大変感謝しています。

誰もが移動しやすい世田谷に向けて

長島会長 現在、ワゴンは、高齢者の方や
親子連れの方、移動に困難を抱えている方
の身近な移動手段として多くご利用いただ
いています。ご高齢の利用者からは、「自転
車に乗ったり、歩くのが大変になったのを
理由に移動を控えるようになると、どんど
ん身体が弱っていく。そういうことを防
ぐために、駅や公園へ行きたい時に行ける
交通手段は必要」との声もありました。

村田課長 実際に、乗降地点でワゴンを
待っている人同士で会話が生まれ、コミュ
ニケーションの場にもなっていると伺って
います。このようなことからコミュニティ
交通は、福祉の増進や地域の活性化を促し、



地域発の挑戦が、交通づくりのカギに!?

世田谷区コミュニティ交通導入ガイドラインを策定しました

砧地区の実証運行をもとに、地域の特徴に応じて新たなコミュニティ交
通を導入するための手引きをまとめました。運行までの流れを4段階に
分け、地域、交通事業者、区のそれぞれの役割などを示しています。

聞いてみました! 長島会長のご意見

ぜひ次の地域の指南書として活用してほしい!
地域ごとの取組みを大切にしながら、外出しやす
く住みやすいまちになっていくと良いですね!

出かけやすく住みやすい街づくりにもつな
がっていると考えます。単なる移動手段と
してだけではなく、街づくりや住民同士の
つながりづくりとしての重要な役割も期待
できます。

長島会長 やはりコミュニティ交通につい
て、もっと知ってもらって、利用する人や
導入する地域が増えてほしいですね。これ
までも、区職員の方たちが地域のイベント
でチラシを配ったり、まちづくりセンター
等で説明会を開いたりと努力してくれま
した。また、ワゴンの利用が多い高齢者向
けにスマホ教室を開いたりして、利用を後押
してくれていることに感謝しています。

村田課長 今後も様々な方法で区の取組み
をお届けしていくので、「乗ってみよう!
出かけてみよう!」と思っていただけると
うれしいです。区の目標は、区民の方がお
住まいの地域で安全・安心に移動できる交
通手段の選択肢を充実させることです。フ
レイル予防や介護予防、子育て世代の支援
など、あらゆる世代の方の生活の質の向上
や地域の活性化を促し、子どもから高齢者
の方まで誰もが暮らしやすい世田谷を目指
していきます。



ガイドラインや公共交通不便地域
対策について、詳しくはこち
ら

区HPQ | 18669

